

## 平成27年度 第6回観察会 記録（1回目）

日 時	平成 28 年 1 月 18 日（月）～24 日（日）	
観察地	ニュージーランド・ネルソン エイベルタズマン国立公園	
講 師	田中克京大名誉教授、マオリ族マイク、ニュージーランド自然保護局監察官バーニー・ウィルソン社社長ダリル（通訳：リアルニュージーランド社藤井巖氏）	
テーマ	ニュージーランド自然観察会（先住民マオリの自然哲学による自然保護と森里海連環を学ぶ）	
備 考	参加者数 23 名、スタッフ：薬師神道子、山野渉、中山勝一	記録：中山勝一

ニュージーランド（以下NZ）観察会は田中克先生の「海遍路」の盟友で、外資系証券会社を退職後NZ現地で主として日本の学生や留学生のサポートをしているリアルニュージーランド社藤井巖さんの企画・監修になるものである。この観察会はエコツーリズムの先進国NZでシーカヤックやトレッキングなどのアクティビティを体験すると共に、先住民マオリ族の自然哲学を受け入れ、環境政策に生かすNZの自然保護活動を実体験することにある。

5月に来日講演された藤井さんの講座はNZの紹介と自然保護の取組みに関するものであったが「長く白い雲の国」NZの爽やかな風が印象に残る講義であった。

ニュージーランド観察会は第1回 2016.1.18～24、第2回 2016.1.25～31の2回に分けて実施され、いずれも田中克先生が同行され指導された。

観察会の舞台エイベルタズマン国立公園はNZで最小の面積の国立公園であるが、複雑に入り込んだ海岸線と広大な干潟、黄金色に輝く砂浜はNZで最も人気があるトレッキングコースがあり、シーカヤックは世界のメッカである。以下第1回目の観察会記録である。



田中克先生



藤井巖さんとマイク

**第1日 1月18日 ニュージーランド通関**

伊丹空港から成田空港乗り継ぎでNZオークランドへ（NZ航空90便）。NZは検疫上薬、食品やトレッキングシューズの持ち込みの税関検査が厳しいと聞いていたが全員何事もなく無事に通関した。

**第2日 1月19日 マオリの伝統的歓迎儀式**

ネルソン到着後、マオリの集会所マラエで伝統的歓迎儀式、ポフォリ（挨拶と歌の交換）とホンギ（鼻先とおでこ同士をくっつける挨拶）、その後の軽食の共有で部族同志が打解け仲間になる儀式である。儀式に参加することで単なる旅行者ではなくマオリの仲間としてNZの自然を体験する視点が与えられたように思う。

**第3日 1月20日 マオリ聖地訪問とNZ政府の自然保護取り組みの講義**

マオリの聖地・泉の湧くりューワカリサージェンスを訪問後、水上バスで国立公園内ロッジに移動。自然保護局（DOC）監察官による自然保護政策の講義を受けた。DOC 監察官はマオリ・モエツカ族長であり、マオリの自然観とNZの自然保護政策を同時に体现する人物だった。マオリは自然神信仰であり、父なる空と母なる大地、その間に生まれた山や森や川や海は皆兄弟である、という思想はどこか日本人の宗教観とも共通する。

一方ヨーロッパ人が自分たちの持ち込んだ文明による自然破壊に直面し、その反省からマオリの自然観を取り入れ、自然保護の基盤づくりに活用している点も興味深いものがあった。先住民と移住民との間には長い間の葛藤があったと思うが、近代文明を切り開いたキリスト教のヨーロッパ人の子孫が、結果としてマオリの自然神を受け入れ、独自の価値観を築いて行こうとする姿は未来を感じさせる。

夕食後マオリ人ガイドマイクによる薬草観察会の中でも先人の知恵を大切にする姿があり、古き日本の姿もそうであった。

#### 第 4 日 1 月 21 日      トレント湾内でシーカヤックとトレッキング

2 班に分かれシーカヤック（カヌー）とトレッキング、晴天に恵まれ色々あったシーカヤックと黄金の海岸線を遠望できるトレッキングは忘れられない思い出として残る。

午後水上バスでメドウバンクに移りウィルソン社社長ダリルからウィルソン家 7 代にわたる開拓の歴史の講演を聞く。夕刻マオリ人ガイド、マイクの干潟生物の説明と潮干狩りに興じる。

#### 第 5 日    1 月 22 日      午前中シーカヤックとトレッキング、午後ネルソンに戻り 有機栽培のワイナリー、森の幼稚園などを訪問し、 地元の人たちとバーベキュー

アフロワ湾でシーカヤックとトレッキングを楽しんだ後水上バスでネルソンに戻り、マラエでアメリカからの研修生たちとポフォリ交換、世界 10 指に入るワイナリーでテースティング、森の幼稚園でのグンデラ園長と懇談、その後バーベキュー会場に移動し地元の人たちとの交歓会。岡崎さんの手品披露は場を大いに盛り上げた。中身の濃い一日であったが NZ の里の生活を体験する一日だった。

#### 第 6 日    1 月 23 日      オークランドに移動し市内観光、フェアウェルディナー

田中先生、藤井さんと別れ、国内線でオークランドに移動し市内観光。緑のネルソンから NZ 第一の大都会・オークランドの変化を楽しみ、買い物ツアーとスカイタワーでフェアウェルディナー。

初代総督に因む M.J.サバージ公園はマオリの遺物を残そうとする試みが既に昔からあった事を知らせる。

#### 第 7 日    1 月 24 日      オークランドから成田を経て、極寒の伊丹空港に全員元気で帰国

##### 【所 感】

エコツーリズムの先進国 NZ でのアクティビティもさることながら、マオリの自然神信仰を学んだ旅であり、マオリの哲学を自然保護に生かそうとする NZ の取組みは、自然が荒廃し先人の教えが消滅しつつある日本にとって大きな示唆を与えているように思う。

近代文明の限界を見極めつつ、先人の知恵にも学び、過度に集中せず、自然と共生しつつ、国土全体を再生するという試みが、今の日本では求められているようにも思う。

現地にて 2 週間以上とどまり 2 回にわたる観察会をご指導頂いた田中克先生の御苦勞に感謝申し上げます。



以下第 1 回目観察会行動記録も参照してください。



**地球環境・自然学講座 ニュージーランド観察会**  
(先住民マオリの自然哲学・世界観による自然保護と森里海連環を学ぶ)

第1回目G : 2016年1月18日(月)~1月24日(日)



	都市	行程
第1日 1月18日	成田 オークランド	伊丹空港発 成田空港乗り継ぎで 空路、ニュージーランド・オークランドへ (ニュージーランド航空NZ090便)
第2日 1月19日	オークランド ネルソン	ニュージーランド入国、国内線乗り継ぎでネルソンへ マオリの教会マラエで正式歓迎儀式、Powhiri(ポフィリ)と、 伝統的な挨拶Hongi(ホンギ) 夕食はウェルカムディナー
第3日 1月20日	ネルソン エイペルタズマン 国立公園	マオリの聖地Riuwaka Resurgence訪問 カイテリテリから海上ボートでトレントベイへ DOC係官による自然保護政策解説、マオリによる薬草観察会
第4日 1月21日	エイペルタズマン 国立公園	トレントベイでシーカヤック又はトレッキングのアクティビティ 午後海上ボートでアワロア・メドウバンクへ Wilson's社CEOによる国立公園の開拓の歴史講演
第5日 1月22日	エイペルタズマン 国立公園  ネルソン	アワロアの干潟でシーカヤック又はトレッキング 海上ボートでネルソンに戻り、マオリの果樹園、森の幼稚園、 ワイナリー訪問(試飲) 地元の人々とバーベキューパーティ
第6日 1月23日	ネルソン オークランド	国内線でオークランドへ オークランド市内見学、買い物ツアー スカイタワー回転展望レストランでフェアウェルディナー
第7日 1月24日	オークランド 成田 伊丹	オークランド発成田空港へ(ニュージーランド航空NZ099便) 成田空港乗り継ぎ 伊丹空港 19時50分散



指導の田中克京大名誉教授



今回の旅行の企画監修の  
リアルニュージーランド代表藤井巖さんとマオリ人ガイド・マイク



リアルニュージーランドの  
ひとみさん



田中先生と今回のスタッフ  
(中山、薬師神、山野)



フェヌイティ社のスタッフ  
チャーリーとマラマ



DOC監督官兼マオリ酋長バーニー

第1日:1月18日(月)  
伊丹空港集合、成田空港乗り継ぎ  
ニュージーランド・オークランドへ



アークスリー社牧さんの説明



田中先生ご挨拶



オークランド着



オークランドの案内人:のりこさん



手荷物を持って国内線乗り継ぎ



ネルソン行き



虹が前途を祝福



空路ネルソンへ

第2日:1月19日(火)

ネルソン着、マオリの歓迎式典  
伝統的挨拶、ポフォリとホンギ



マオリのモエツカ族の教会マラエで歓迎式典



子供たちも含め現地の人が参集



マオリ族の伝統的挨拶:ホンギ(鼻先とおでこをくっ付ける)



食べ物を共有し親密になる。



ラザーフォードホテル・レストランOCEANOでウェルカムパーティ



ラザーフォードホテルにて

第3日: 1月20日(水)

マオリの聖地 Riuwaka Resurgence  
カイテリテリから海上ポートでトレントベイ  
DOC監察官による自然保護政策解説  
マオリによる薬草観察会



ネルソン



今回のフェヌイティ社とWilsons社スタッフ紹介



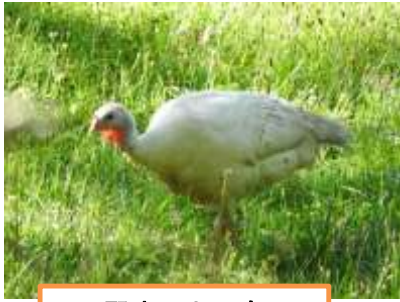
マオリの聖地 Riuwaka Resurgence



泉は再生を意味する







野生の七面鳥



神秘の泉:水温で湯気が立つ

ウェルカムスワロー



カイトリテリ:海水浴場と水上タクシーの発着場



水上バス発着、桟橋はない



カヤック



水上バスに乗り込む



スプリットアップル



長い砂州バージンロード



引き潮なので小型ボートに乗り替え



ギンカモメ



ミナミオオセグロカモメ



アガペンサスが満開



遠浅で膝まで水につかり海の中を歩いて上陸







トレントベイのロッジ



DOC監察官かつマオリ・モエツカ酋長のバーニーによる自然保護取組とマオリの自然観の講義



講義を終わってバーニーと



夕食前の祈り



夕食のサケ料理



マイクによるマオリの薬草観察会  
薬草観察は兄弟であるハーブを取るにあたりお祈りから始まりました。

マヌカ(似たものにカヌカ)の花







ドドナエア



ニュージーランドは日が高い

第4日: 1月21日(木)  
トレント湾内で2組に分かれ  
シーカヤックとトレッキング

午後メドウバンクに移動  
エイベルタズマン開拓の歴史



干潟は満ち潮



山の間から御来光



ベルバード(ミツスイ)



ウェカ(クイナ)

トレント湾でシーカヤック  
(カヌー)



パイドシャグ(ウミウ)



パドルの持ち方と漕ぎ方の講義

さあ出発!







上手く漕いでいます



油断大敵



懐かしい手回し絞り機、何を絞っているのですか？



ロッジのデッキで昼食



マグバイ(カササギ)



パイドオイスターキャッチャー(ミナミヤコドリ)



黒いオイスターキャッチャー(ミヤコドリ)はNZ固有種



干潟を歩いて小型ポートへ



浜に行くハイカー



アンカレッジベイで海上タクシーに乗り換え







エイがいました。



カヌー組はトレント内海で腰を操り、ロッジで昼食後海上タクシーで、トレッキング組を出迎え。

トレッキング組：  
約3時間のトレントベイからパークベイまでのトレッキング。山道からの黄金の浜の展望も美しかった。



小休止



パークベイでカヌー組とトレッキング組が合流

宿泊のアワロア浜メドウバンクに移動



オットセイ見学



ニュージーランド・オットセイ



パイドジャグ(ウミウ)



メドウバンクロッジもアガパンサスが満開



メドウバンクのスタッフ



ウィルソン社社長ダリルによるエイベル・タズマン国立公園の開拓の歴史講演





マオリ族マイクによるアサリなど海浜生物の話



潮干狩り:オイスターキャッチャーに負けずにアサリ貝拾い、



スタッフが夕食の準備:前菜のクラムチャウダーの味は抜群だった。



夕食後の懇親会、話題は専らカヌーの出来事顛末

ラム料理

第5日:1月22日(金)

午前中はシーカヤックとトレッキング

午後はネルソンに戻り果樹園訪問、  
森の幼稚園訪問、ワイナリー訪問、  
地元の人たちとバーベキューパーティ  
ネルソン市内散策



ニュージーランドバト



ウミウ





干潟は満潮



昼食は手作りのサンドイッチ



アクティビティ前の準備体操

トレッキング組



干潟を歩いて出発



トレッキングシューズに履き替え



蜜蜂駆除の箱

害獣ポッサム捕獲  
仕掛け設置の目印



ひとみさんの樹木と虫の共生  
の説明。  
蜜を出す虫が樹皮の下に入  
ります。



尾羽を扇状に広げるファンテイル



ソフトツリーファーン NZ固有種

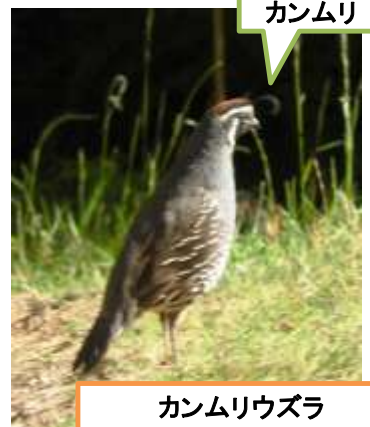
カンムリ



林間学校の中学生



ラン



カンムリウズラ





干潟を歩く



カヤック組：  
前日のトレッキング組が今日は  
アワロアの内海でカヤック



全員無事に漕ぎました。



満潮の干潟

エイベルタズマン国立公園から  
出発のカイテリテリへ



干潟は満潮のため上陸用舟艇にロッジの棧橋からじかに乗り込むことが出来た。





シルバーファーン



アガパンサス



ブタナ



レプトスペルアム

カイテリテリに到着後モエツカのマラエでアメリカからの留学生たちとエールを交換。次いで森の幼稚園で園長グンデラさんの話を聞く。



自由に遊ぶ園児



グンデラ園長と写真



グンデラ園長から運営について説明を聞く



自然栽培のノイドルフ・ワイナリー







白、赤3種のワインをテイスティング

地元の人とバーベキューパーティ  
ネルソン日本人会会長ご夫妻(養蜂業)を始め、  
ワイナリー等を運営の地元日本人達や  
イヌイエティ社のスタッフ達と談笑。



藤井さんご子息



マイクとひとみさんがこの日が誕生日

皆で花束を贈った。



マジシャン・ユウコの登場です







皆で「幸せなら手を叩こう」の合唱



フェヌイティのスタッフ達とお別れのホンギ



ひとみさんともホテルでお別れ。ハグでお世話になりました。



ネルソン市内の散策



街角にはフラワーバスケットが多い



大聖堂



市庁舎には新しい国旗の候補が



市庁舎



ニュージーランドフラックス



シナノキの実(菩提樹)



センターオブニュージーランドの塔



第6日：1月23日(土)

ネルソンから国内線でオークランドへ  
オークランド市内観光  
買い物ツアー  
スカイタワーの展望レストランでフェア  
ウェルディナー



ラザーフォードホテルを早朝に出発



ネルソン空港で田中先生、藤井さんとお別れ



ネルソン出発



タラナキ山(NZの富士山)



オークランド着



バスで市内観光



スカイタワー



ハーバーブリッジ



飲茶の昼食



水陸両用バス、  
後ろは宿泊のメルキュールホテル



オークランドガイドのりこさん



ポフツカワ  
(ニュージーランドクリスマスツリー)





MJ.サベージ・メモリアルパーク



ノーフォークパイン



花嫁の写真どり



ノーフォークハイビスカス



オークランド市内観光



空中ブランコ



スカイタワー



スカイタワー回転展望レストランでフェアウェルパーティ  
恒例のじゃんけん大会も



第7日: 1月24日(日)  
最終日

オークランド空港から成田空港へ  
国内線乗り継いで伊丹空港  
解散

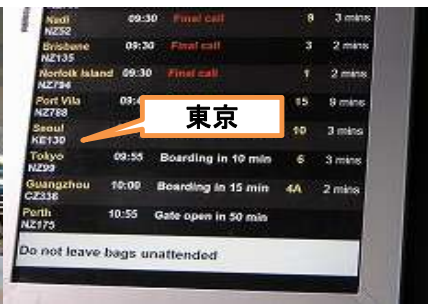


宿泊のメルキュールホテル





オークランド空港



全員無事に伊丹空港に帰国しました。

シルバーファーンと南十字星



グリーンストーン

マオリの父なる神は天、母神は大地。山、森、海は天と大地から生まれた子供神。必要以上に自然を食らいというマオリの思想は現代に生きる我々に大きな示唆を与えてくれます。マイクから送られたグリーンストーンのペンダントはマオリ族だけが贈ることが出来、我々と一体となったしるしの事です。子供達や孫達にもマオリへの通行証になるとのこと。今回のニュージーランド観覧会は他では得難いものを沢山貰った思い出に残る観覧会になりました。晴天に恵まれ美味しい料理に舌鼓を打ち、もう少し長く居たかったという思いが残る旅でした。

記録・文責：中山勝一

参加者名簿 第1回目（1月18日から1月24日）

名簿	フリガナ	氏名	性別	経歴
1班	指導	タカ マサル	田中 克	男
	1	アベ セイ	阿部 聖子	女
	2	イカミ チヨエ	池上 千代枝	女
	3	ウロホ シチエ	鱈星 千恵子	女
	4	カネ チツコ	金戸 千鶴子	女
	5	サワムラ ヤスコ	澤村 泰子	女
	6	ヒガシキ カスコ	東脇 和子	女
	7	フジタ ヒロコ	藤田 宏子	女
	8	マツモト タエ	松本 多枝☆	女
	9	スミヤ ジュンジ	角谷 淳二	男
	10	フナモト ヒロミチ	船本 浩路	男
2班	11	ナカヤマ カツイチ	中山 勝一★	男
	12	アダチ ミエ	安達 美恵子	女
	13	アリス ミマコ	有住 正子	女
	14	イシカワ タツコ	石川 タツ子	女
	15	オカザキ ユウコ	岡崎 裕子☆	女
	16	ササイ サナエ	笹井 早苗	女
	17	トナカ ケイコ	豊中 啓子	女
	18	ヒシ ヨウコ	小童 陽子	女
	19	フクダ ヒロコ	福田 裕子	女
	20	ヤクシジン ミチコ	薬師神道子★	女
	21	ナカノ ヨシヒコ	中野 義彦	男
	22	フジタ テツヒコ	藤田 哲彦	男
	23	ヤマノワタル	山野 渉★	男

★スタッフ

☆印 班長

以上